慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	大日本史料第五編之六(東京帝國大學史料編纂掛發行)
Sub Title	
Author	宮島, 貞亮(Miyajima, Teisuke)
Publisher	三田史学会
Publication year	1927
Jtitle	史学 Vol.6, No.3 (1927. 9) ,p.155(467)- 156(468)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270900-0155

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

を訪れた歐米の學徒と接觸するの機會を得、而して、著者自身も同博物館の命により親しくアッシリアの古蹟を踏査し、發掘して多數先輩の業蹟を見聞考究した。著者はその學識經驗共に現在イギリスが有するアッシリア學の泰斗として萬人の認むる所で、多數の奬めに從つて本書を著はしたことは、吾人の甚だ欣快とするところである。

著者はアッシリア學の創始者を以つて H. C. Lawlinson であるとし、彼に對して最大の敬意を抱いて居る。それ故著者は本書に於てロウリンソンの業蹟を最も詳細に述べようと企てゝ居るやうに見受けられる。これに次いで Trustees of British Museum がアッシリア學を樹立し、それより漸次斯學の研究が西歐諸國に傳播し、終にアメリカに渡つて今日の確乎たる根據を築くに至つたものである。アッシリア學がその淵源をイギリスに發することに著者は大いなる誇を抱いて居るのである。

第一章はペルシアの Takht-i-Jamshîd, Murghâb, Naksh-i-Rustum 竝に Bihistûn の四ヶ所に存する古代の碑面に刻まれた楔形文字に關する、第十五世紀の中頃から第十九世紀の中頃までの旅行者の見聞錄について述べ、それ等の見聞錄が如何にヨーロッパの學者の間に研究心を喚起するに至つたかについて語つてゐる。第二章は、特に Bihistûn の斷崖に起されて居る三樣の文字に關する旅行者の記錄に費されてゐる。楔型文字解讀の端緒が開かれたのは實にこの Bihistûn の碑文の研究からであつた。第三章はペルシアに遺つて居るこれ等の楔型文字の解讀の序幕について起されて居る。第四章以下第十章まではロウリンソンの研究史であつて、彼の超人的努力によつて遂に神祕の扉が開かれるに至るまでの記錄である。第十一章は大英博物館によつて行はれたる發掘につき第十二章は同博物館に於ける發掘品の保存に關し、第十三章は蒐集品の目錄作製について、第十四章は楔型文字のテキストの發刊について記され、第十五章はイギリスのアッシリア學者、第十六章は佛、西瑞、獨、伊、和蘭、北歐諸國、アメリカ等の諸國のアッシリア學者の業蹟が記述されて居る。

本著の讀者にして、諸學者の努力によつて無から有を生むが如き難事業が達成されたことに驚異を感じない者はないであらう。彼等の不屈不撓の精神と學者的良心とは吾人に偉大なる教訓を遺して居る。余は本書をアッシリア學研究の好指針として推奬する許りでなく、學徒の修養書としても亦價値あるものと思ふ。（恒松安夫）

大日本史料第五編之六（東京帝國大學史料編纂掛發行）

大日本史料の編纂が、史料編纂掛の一大事業であることは、茲に贅言するを要しない。

大日本史料第五編は、鎌倉時代、承久の戰役より北條氏の滅亡に至る百十二年間であつて、今回上梓された第六册は、寛喜二年の末より翌三年十月に亘つてゐる。此の中、前年より繼續されてゐる大饑饉の顚末は、最も注意すべき記事であつて、當時の經濟界に於ける動搖、世道人心に及ぼした影響、これに對する朝廷と幕府との措置、政策等が明にされてゐり、其の材料は、從來世に

知られなかつた岩崎小彌太氏所藏民經記及び紙背の文書が、主要なものとなつてゐる。其の他、美術工藝史、社會事業史、及び宗教史等の方面の記事で、注意すべきものもある。尙御物の春日權現記に見ゆる勸修寺晴雅入寂の圖、及び醍醐寺所藏の權僧正成賢の讓狀の如き、世に稀少なものゝ寫眞が挿入されてゐることが喜ばしい。（宮島貞亮）

耶蘇會士日本通信上卷（村上直次郎譯　渡邊世祐註　聚芳閣發行）

近時、南蠻紅毛、切支丹さては明治文化に對する世の人の興味又は研究には、眞に一時期を劃するかと思はれるものがあつて、之等に關する著書の簇出は、此の間の消息を物語つてゐる。聚芳閣企つる所の異國叢書の刊行も亦その一に外ならぬのであるが、こは其の書目の選擇と、その譯註者が、いづれも斯界の權威にしてその擔當理想的とも云ひつ可き程に宜しきを得たる點に於て、到底他の追隨を許さぬものがある。昨秋之が計畫を知りたる時、私は喜び禁じ得ぬものがあり、その發刊の日の一日も早からんことを待つたのであつた。

かくて、その叢書第一卷は、其の內容に相應しき裝ひして先月漸く世におくり出された。卽ち村上直次郎博士譯、渡邊世祐博士註するところの耶蘇會士日本通信上卷である。之は昨年九月、同じ譯者の手になりて長崎市役所より獲允されたる長崎叢書第二卷耶蘇會年報第二卷と妹妹篇をなすものであつて、共に一五九八年ポルトガル國エボラ町 Evora のマヌエル・デ・リラ Manoel de Lyra が出版にかゝる「耶蘇會のパードレ及びイルマン等が日本及び支那兩國より印度及び歐洲の同會員に贈りたる一五四九年より一五八〇年に至る書翰第一編」Cartas qve os padres e irmão da Companhia de Jesus escreue rio dos Reynos de Japão & China aos da mesma Companhia da India, & Europa, desdo anno de 1549. até o de 1580. Primeiro Tomo. と題するポルトガル文の書翰集中より前者は主に長崎、平戶、大村、島原、天草、豐後等九州各地に關係ある一五五一年より一五七〇年に至る四十七通の書翰を收め、後者卽ち今手にしたる一卷は京畿の地方に關する一五五九年より一五六九年に至る三十一通の書翰を收めてゐる。

蓋し、天文十八年、始めてザビエル上人我國に渡來して、具さに日本の國情を視察して布敎の大計畫をたてゝ以來、耶蘇會宣敎師の來りて在留する者、年と共に多きを加へ、布敎の區域は、九州より近畿地方に及び、宣敎師は年々布敎の狀況を報告して、ローマ本部、又は各國支部との連絡を計り、本部また同會の業績を普く世に知らしめんが爲に、之を出版した。之等の書翰は、啻に布敎の狀況を報ずるに止まらず、苟も彼等宣敎師の目に影じたるものは、其の何たるを問はず、細大漏らすところなく悉く之を丹念なる筆に傳へてゐる。されば一度之を繙く時は、當時我國の風俗習慣、各地の戰況、天變地異等、所謂當時の世相を、遺憾なく伺ひ識ることが出來る。（之が異國人なる宣敎師の眼を通して見たる世相たることに心すべきは云ふまでもない）